

# 一発の段差釣り

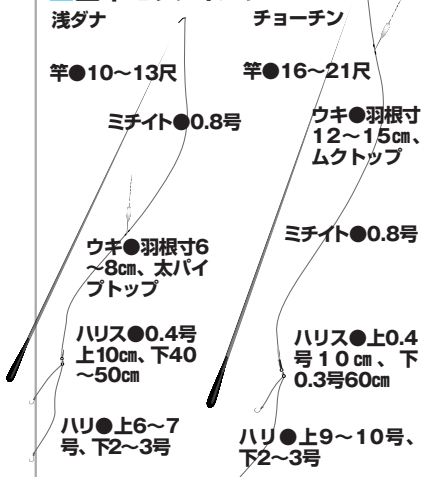
## ●釣り方のコツ

ボソツ気が強い大きなバラケでトップをしっかりなじませるのが基本。その後、ジワジワと上がるリズムだ。ここでいきなりスツと上がるとバラケが割れ落ちしているサインなので、ハリ付けのときに手の平で揉む回数を多くして調節する。上バリが小さいとエサ持ちが悪くなるので、チョーチン釣りではヤラスタイプの9〜10号の大バリを使うと安心だ。

アタリは小さく入るものは見送り消し込んで竿先が絞り込まれたら軽く竿を立てる。へら鮎の寄り方や活性によって下のハリスの長さが変わってくるので、アタリが出ないときは10cmずつ長くして様子を見よう。反対にカラツンが目立てば5cmずつ短くして、その日にマツチした長さを探りたい。下バリはくわせタイプの3号を基準に、ハリ掛かりが悪ければ2号にチェンジして吸い込みを良くしたい。

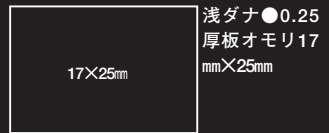


## ■基本セッティング

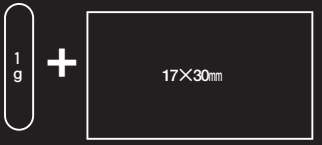


大きなバラケを打ってへら鮎を寄せるため、浅ダナ釣りではトップが沈まないよう太めのものを選びたい。チョーチン釣りでは一気にタナまでエサを入れ、そこでバラけてへら鮎を寄せるイメージだ。そのためウキのオモリ量が少ないとへら鮎のタナが拡散してコンスタントにアタリが出なくなるので要注意。ハリスは上が10cm、下は浅ダナでは40〜50cm、チョーチン釣りでは60cmが目安。

## ●オモリ 実寸大



18尺チョーチン ● 絡み止めタングステン オモリ 1g + 0.25mm 厚板オモリ 17mm x 30mm



## ●浅ダナ釣り用バラケ

段差バラケ400cc+  
バラケマツハ200cc+水100cc



+



+



### ●エサの大きさ

実寸大



## ●チョーチン釣り用バラケ

段差バラケ100cc+新B200cc+  
天々100cc+水100cc+  
バラケマツハ200cc



+



+

### ●エサの大きさ

実寸大



+



+



### ●作り方

水分が少ないボソエサが基本。そのため粉のうちによくかき混ぜ水を加えたら水分の偏りがないよう、全体を20～30回混ぜて均一に仕上げる。このとき練り込むと開きが悪くなり、集魚効果が弱くなるのでエアーが絡んだ状態に仕上げるのがコツ。軽く握って水に落とした時、水面に浮いて拡散する状態がベスト。

### ●特徴

混雑で食い渋り、しかも寄る密度が少ないのが休日の釣りだ。それに対応するにはさなぎ粉が大量に配合されている「段差バラケ」、「新B」をブレンドし、水中で麩の粒子が大きく拡散してへら鮒を寄せることが大切だ。さらに縦バラケとなる「バラケマッハ」を加え、集魚した魚を足止めしながら釣るのがポイント。

### ●使い方のコツと手直し

チョーチン釣りでは18尺以上の深いタナを釣ることがあるので、バラケ全体をまとめてタナまで持たせるため「天々」をブレンドすると釣りやすい。これを手の平でギュッと抑えるようにして形を整えてハリ付けする。時間がたつと

トップの戻りがおそくなるので、手水を1、2回うって全体を軽くかき混ぜてから、「段差バラケ」や「バラケマッハ」を一握り加えてバラケ性を促進する。

## ■「一発」の使い分け

「一発」は極小とミクロを使い分ける。使い方は、パックから適量を取り出し水に浸し、1粒摘んで水をしばってハリ付けする（水でなくお湯に10分程度浸すと吸い込みがよくなる）。アタリが出ない原因のひとつに「一発」のハリ抜けがあるので、ハリスの結び目まで深く刺すと安心だ。また、軽く揉み込んでよい。アタリが多いときは渋いながらもへら鮒の寄りがいいので極小を、アタリが少なくカラブリが目立つ場合にはミクロに交換するといひ。

